[史料館講座講演録2]

目白キャンパスの思い出

徳仁親王

「中央教室の思い出」と題する史料館講座のトップバッターを務めさせていただくことを大変嬉しく思います。私は今ご紹介いただきましたように、学習院の幼稚園から大学院まで、この学習院にお世話になりました。そして、現在も学習院大学史料館客員研究員としてこの目白キャンパスに足を運んでいます。

一口に目白キャンパスといいましても、広く言えばその中には学習院幼稚園、学習院男子中等科・高等科、大学があります。ちなみに、小学校にあたる初等科は四谷にあります。目白キャンパスの全景を見ていただきたいと思います（写真1）。私たちがおります百周年記念会館はこのあたりにあります。今日は幼稚園、大学体育館、ピラミッド校舎の名で親しまれ、今日の史料館講座のテーマの中央教室、そして東別館、史料館などを中心に、私と目白キャンパスの関わりについてお話をさせていただこうと思います。なお、お手元にレジメをお配りしてあると思いますので、適宜それを参照しながら話をお聞きいただければと思います。

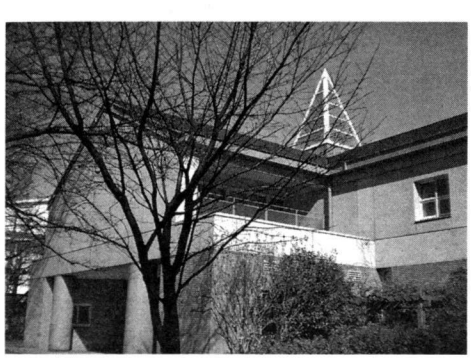
私が学習院幼稚園に入園しましたのは、今から四四年ほど前になります。この写真は当時の幼稚園の建物です（写真2）。そして、こちらは現在の学習院幼稚園です（写真3）。建物は新しいですが、建っている場所は、私が通っていた当時と変わっていません。私の娘の愛子も、本年三月までこの学習院幼稚園にお世話になっておりました。建物の屋根の上にある可愛らしい「とんがり帽子」の明かり取りがピラミッドを思わせます。



1. 目白キャンパス全景　囲んである部分が講演で主にとりあげる建物

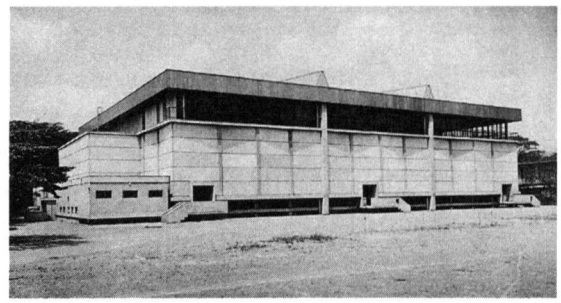


2. 学習院幼稚園　昭和38年(1963)開園

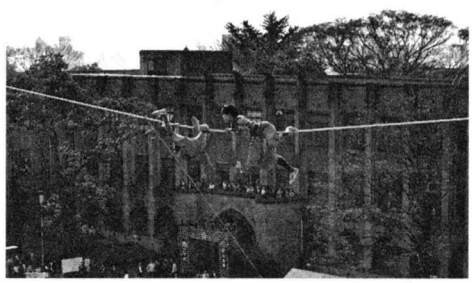


3. 現在の学習院幼稚園　(講演者撮影)

幼稚園の卒業後、私は四谷にあります学習院初等科に入学しました。学習院では初等科は四谷に、女子中等科・高等科、そしてかつての短期大学、現在は四年生の大学となっている女子大学などが新宿区の戸山キャンパスにあります。戸山キャンパスの位置ですけれども、鉄道の駅でいいますと高田馬場駅や、この六月に開通した東京メトロ副都心線の西早稲田駅の近くです。初等科が四谷にあったからといって目白キャンパスに足を運ばなかったというわけではありません。例えば、なんらかの行事が行われるときには、私は他の初等科生と一緒に大学の体育館で行われる記念行事に出席しておりました（写真4）。また初等科五年生、六年生で剣道部に所属していた時には、同じ大学の体育館で行われる正月の寒稽古に参加していました。ちなみに大学の体育館は昭和三八年（一九六三）に竣工した建物で、昭和三九年の東京オリンピックや昭和四三年（一九六八）のメキシコオリンピックの折にバスケットボールの練習場としても使用されたと聞いております。また学習院全体の催しである学習院祭の時などにも、目白キャンパスに来ています。私がよく記憶しているのは、大学のグライダー部の人たちに地上で止まっているグライダーに乗せてもらったことや、北グラウンドで借り物競走に出場して、賞品としてボンカレーをもらったことです。また、確かボーイスカウトの人たちだったと記憶していますが、綱渡りも披露されていました（写真5）。場所としては中央教室、すなわちピラミッド校舎を囲む広場だったかと思います（写真6）。



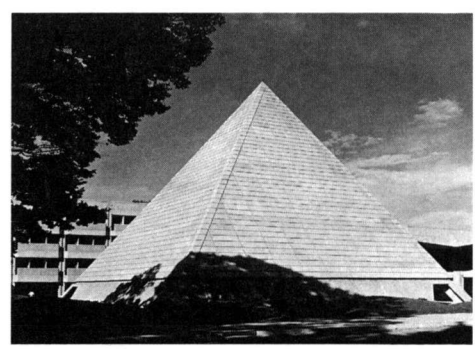
4. 大学体育館



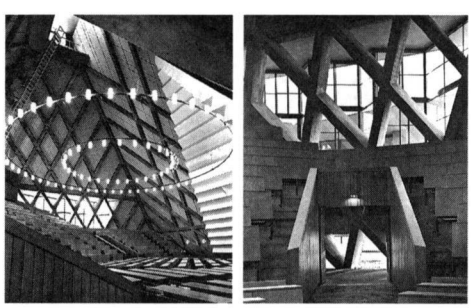
5. 学習院祭の時の綱渡り 1967年卒業アルバムより

私が初めてピラミッド校舎に入ったのは、学習院中等科の入学式の時だったと思います。ピラミッドの形をした面白い建物だという印象は持ちましたが、中等科への入学式ということもあって、多少緊張もしており、内部をゆっくり見渡す余裕はなかったように思います。

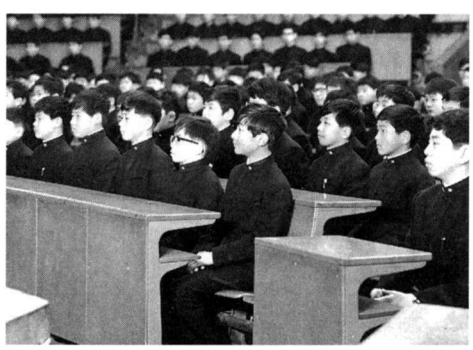
この写真は中央教室、ピラミッド校舎の内部の写真です（写真7）。そしてこれがその入学式の時の写真です（写真8）。私は最前列の右から二番目におりますけれども、スキーで日焼けした顔とともに、当時を懐かしく思い出します。中等科・高等科を通して、入学式及び卒業式はこのピラミッド校舎で行われておりました。この建物が私が生まれたのと同じ昭和三五年（一九六〇）に、著名な建築家で



6. 中央教室



7. 中央教室内部



8. 学習院中等科入学式
昭和47年(1972)(講演者提供)

ある前川國男氏によって建てられたことを知ったのはいつごろだったかは忘れましたが、中等科入学式以降、この建物が私にとって身近なものとなりました。学習院大学への進学にあたっての説明会もここで行われました。

この他、中等科・高等科時代の目白キャンパスとの関わりといえば、毎年冬に体育の授業で学習院内をマラソンしたことが思い出されます。コースは中等科・高等科のグラウンドを出発点にして、目白キャンパス一帯を何周かします。距離はだいたい五キロから六キロぐらいだったと記憶しています。途中には、堀部安兵衛が刀についた血を洗ったという言い伝えがある血洗いの池などがあり、大学の音楽部と思われる人たちが楽器や合唱の練習をしていることもありました（写真9）。なおこの写真は馬場の所から野球場へ登る坂の様子ですが、写真で見るよりこの坂は、はるかに急勾配だったように記憶しています（写真10）。

昭和五三年（一九七八）四月、私は学習院大学へ進学しました。今から三〇年前のことです。入学式が行われたのは、初等科時代も何回か訪れた大学の体育館でした。そして入学式の後、例のピラミッド校舎で、学科の履修に関する説明会が行われました。なお、同じ年の九月に今日のこの史料館講座の会場になっております学習院創立百周年記念会館が竣工されました（写真11）。その結果、入学式もその後はこの百周年記念会館で行われるようになりました。



9. 血洗いの池



10. 馬場（左）と野球場への上り坂（右）



11. 学習院創立百周年記念会館



12. 西１号館

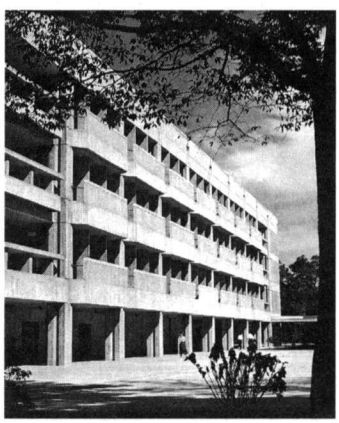
高等科を卒業して大学へ入ると、そこは今までとは大きく違う世界でした。私は文学部の史学科に入りましたが、高等科から一緒の学生は三人だけでした。もちろん女子高等科からは大勢史学科へ入ってきましたが、初等科時代の同級生を除いて、ほとんどの人とは初対面でした。入学式では、まず大学一年生の人数が多いのに驚かされました。また、ガイダンスを受けたり、図書館での説明を受けた後、いろいろな場所でサークルからの勧誘を受けました。このあたり、いかにも大学に来たということを実感しました。結局私は音楽部に入部し、オーケストラでビオラを弾くことにしました。ちなみに、私は今でも学習院のＯＢ管弦楽団の団員として、演奏会にも度々出演していますが、この百周年記念会館はコンサートの折に、よく演奏している場所でもあります。大学の授業は様々な場所で行われましたが、大学の一年生、及び二年生の時に語学の授業を受けた西一号館は、昭和五年（一九三〇）竣工の鉄筋コンクリート造りの建物で、風格もあり印象に残っている建物のひとつです（写真12）。また大学三年生の時に、日本近世史がご専門で昨年他



13. 日本史演習授業風景
昭和55年(1980)1月16日　西1号館にて(講演者提供)

界された児玉幸多先生の日本史演習の授業も、この建物で行われました(写真13)。なお、私の史学科の同期生に毎日下駄で通学していた学生がいましたが、今でも西一号館の木の廊下に鳴り響いていた彼の下駄の音を懐かしく思い出します。

同じく大学一年生の時の日本史の基礎演習の授業は、北一号館の一階で行われました(写真14)。現在の史料館の館長をされている井上勲先生も、その時基礎演習の授業を担当しておられました。二年次以降、私の卒業論文の指導をしていただいた安田元久先生の日本中世史の演習を同じ一階で受講しました。ちなみに、北一号館の二階部分は私が入学した当初は、史学科の研究室、及び先生方の研究室になっておりました。その他、この建物には階段式の教室がありました。中には教壇側に出入り口がある教室もあり、遅刻をしてきた学生が決まりが悪そうに入ってきた光景もつい昨日のことのように思い出されます。この階段式の教室では授業を受けたのみならず、大学側の御配慮で大学入学試験の監督のアルバイトを経験することができました。入学試験当日、私は、日本史の試験を始め、午前、午後と試験監督の一人として、問題用紙の配布や受験生の顔写真と本人との照合を行う作業をしましたが、受験の経験のない私は、まず受験生の真剣な表情と、張りつめた会場の雰囲気に圧倒されてしまいました。受験票と本人の照合の



14. 北１号館

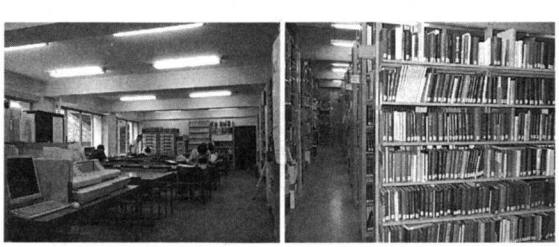


15. 北２号館

チェックも、受験生が一生懸命答案を書いているときに顔を見ることはなかなか難しいように思いました。私がいることを受験生に気が付かれることはあまり好ましいこととは思えませんでしたが、まあ、そういう余裕もないだろうからと、途中からは気も楽になりました。若干余談になりますが、当日は私の警備を担当した皇宮警察や警視庁の人たちが学習院の腕章をつけて警備にあたってくれていました。学習院の人たちはずいぶん体格がいいなあと思った受験生も、あるいはいたかもしれませんが、それこそその余裕もなかったかもしれません。それにしても大学の御配慮で、受験の雰囲気を経験できたことは本当にありがたいことでした。そしてこれは私にとって生まれて最初で最後のアルバイトだったかもしれません。いかほどかは忘れましたがアルバイト代も大学からいただきました。

なお、北一号館はピラミッド校舎と同じ昭和三五年(一九六〇)の竣工です。これにはピラミッド校舎を中央に置き、その周囲に教室を配置するという前川國男氏の考えがあったと聞いています。

大学二年生になったころ、新しく北二号館と呼ばれる文学部の研究棟ができ、史学科の研究室も先生方の研究室もそちらに移りました(写真15)。これは現在の史学科研究室の閲覧室と書庫の様子です(写真16)。左側の写真の閲覧室には現在はパソコンも導入されていますが、



16. 史学科研究室　閲覧室・書庫

私がいました頃にはなかったように記憶しております。この研究室を利用しながら、私は日本中世の瀬戸内海の海上交通についての研究を進め、大学の卒業論文、そして大学院での修士論文に取り組みました。

大学時代の思い出には音楽部での活動も大きな位置を占めています。オーケストラの練習場として多く使用した場所として、現在は本部棟の建っている場所に平成四年（一九九二）まであった仮講堂があります（写真17）。この建物は通常は学生の談話室や、演劇、音楽関係のイベントに使用されたりしましたが、新学年にあたっての身体検査もここで行われました。かなり広い講堂でしたので、オーケストラの練習にはうってつけの場所でしたが、冬の夕方から夜にかけての練習の折の寒さは厳しく、ストーブから離れた場所で弾いていると、ビオラを弾く指が多少動きにくくなったようにも記憶しています。なお、音楽部の部室は、私が大学の三年生の頃までは写真でいえば仮講堂の左奥に続く建物の中にありました。写真で画面に印があるあたりが音楽部の部室です。音楽部の活動には実は高等科の頃から興味があり、一度部室に伺ったことがありました。その時はずいぶん汚い部室だと思ったというのが正直な感想だったのですが、音楽部に入ることができたのは本当に良かったと思います。



17. 仮講堂　　囲んだ部分に音楽部の部室があった。



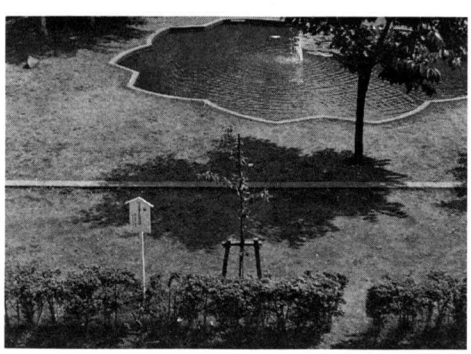
18. 学生集会所

練習会場としてはこの他、今はありませんが学生集会所（写真18）や、現在の輔仁会館西館の食堂でも行われました（写真19）。私も学生時代にはこの輔仁会館の学生食堂で毎日のように食事をしていました。なおこの輔仁会館と学生集会所の間には桜池と呼ばれる池がありました（写真20）。名前の通り桜を象った池なのですが、音楽部のコンパの後、この池に放り込まれたことがありました。この日放り込まれた私は一年先輩の方からトレーニングウェアを借りて、それを着て帰ったことを記憶しています。ちなみにこの桜池はその後埋められてしまい、古戦場を偲ばせるものは今は残っていません。

学習院大学を卒業して私は学習院大学の大学院へ進みました。大学院生として受けた授業の場所として東別館について次にお話してみたいと思います（写真21）。東別館は幼稚園にほど近い



19. 輔仁会館西館



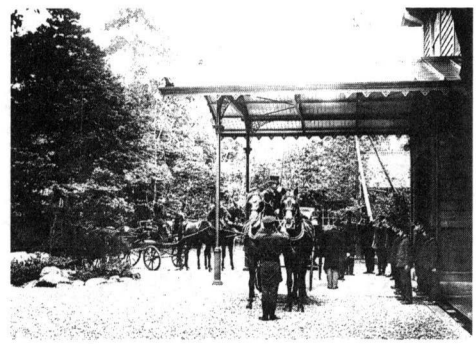
20. 桜池



21. 東別館（旧皇族寮・別寮）

ところにあり、大正四年（一九一五）に竣工した建物です。目白キャンパスに現存する建物としてはかなり古いほうで、通称は「別寮」と呼ばれて、皇族のための寮として建てられたものです。正面の車寄せの屋根は高くなっているのがお分かりいただけるかと思いますが、これはここに馬車を止めたためで、馬車でも十分入れる高さに作られています（写真22）。もちろん今日、馬車で東別館に来るような学生はおりません。そして次にお示しするのは現在の東別館の内部の様子です（写真23）。私は大学院では学生時代に引き続き、日本中世史を専攻しました。そしてこういった演習室で私は、安田元久先生や新田英治先生の日本中世史の史料、例えば「鎌倉遺文」や「満済准后日記」、「看聞日記」などを読むという演習に参加していました。東別館は外から見るといかにも古そうな建物ですが、実際内部も写真でお分かりのように古い佇まいを残しています。しかしながら静かな雰囲気で、快適に授業を受けることができました。

大学院の修士課程を終えた私は平成四年（一九九二）の四月以降、当時学習院大学の学長をされていた早川東三先生のお誘いで学習院大学史料館の客員研究員の辞令を受け、今日に至っています。この学習院大学史料館は、先ほどお話した北二号館のすぐ脇にある建物で、学生当時は二階の史学科の研究室から史料館の建物を眺めながら、不思議な建物だな、内部にはどういう人たちがいるのだろうと思ったものの、当時はその史料館で一五年以上も客員研究員として研究や史料調査といった仕事をすることになるとは思いませんでした（写真24）。

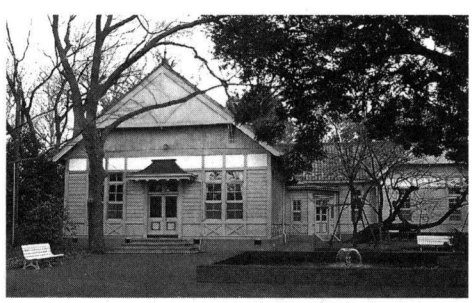


22. 別寮（現東別館）車寄せ
（『大礼奉献学習院写真』　大正4年(1915)より）

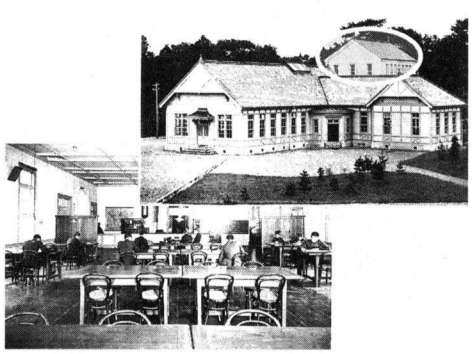


23. 東別館内部

この建物は学習院の中でも最も古い建物の一つで、明治四二年（一九〇九）に旧学習院の図書館として建てられたものです。設計や工事監督には、学校建築を多く手がけた久留正道氏が、当時の宮内省の委託を受けてあたりました。この大正四年（一九一五）当時の写真では図書の閲覧の様子や史料館の建物の後ろに、今はない三階建ての書庫がついた状態の建物がご覧いただけます（写真25）。その後、この建物は多少の改装を経て、昭和五〇年（一九七五）、史料の収蔵、整理、保存と公開を行うことを目的として、史料館として開館いたしました。これは現在の史料館の内部の写真です（写真26）。創建後一〇〇年は経とうとしている建物で老朽化は否めませんが、建物全体の佇まいはもちろん、廊下や天窓、扉の細工など大変趣のある建物だと思います。現在収蔵されている史料は、古墳の出土品や中国の唐三彩の陶磁器、装束などのモノ史料、室町時代の古文書、江戸時代の大名・公家・名主などの史料、明治時代以降現代までの学習院関係者の史料、皇族・



24. 北別館（現史料館・旧図書館）　（講演者撮影）



25. 図書館（現北別館＝史料館）全景（右）
囲みの部分が三階建て書庫
閲覧室（左）
（『大礼奉献学習院写真』　大正4年(1915)より）





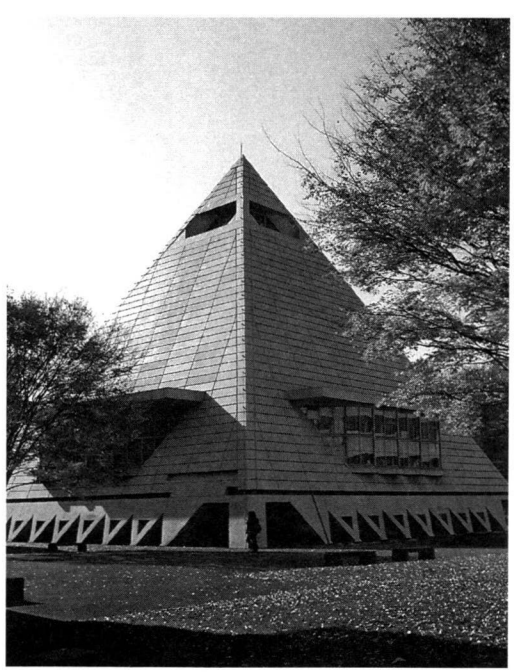
26. 現在の史料館内部

華族に関わる史料、写真史料、双六コレクションなど多種多様で、総件数はおよそ一三万件を数えます。このうち整理や調査、研究を終えた史料群については、『学習院大学史料館収蔵資料目録』、及び『学習院大学史料館紀要』において、その成果を公表しています。また仮整理段階にある史料については、常設展示、特別展示を通して、公開に努めています。この他、博物館の学芸員資格取得のための実習や、今日のような一般の方々を対象とした公開講座も年三回ほど開催しています。

私はこの史料館で主に鎌倉時代、室町時代に活躍した公家の西園寺家の史料についての調査、研究を行っています。平成八年（一九九六）に現在の西園寺家の当主の方から史料館に寄託された六〇〇点の史料の中に、今まで知られていなかった室町時代の西園寺家の当主の日記の断簡や日記の目録、同じく室町時代の西園寺家の所領に関する史料、あるいは平安時代から鎌倉時代、摂関家や西園寺家といった上級貴族が利用していた牛車の絵図を江戸時代に写したものなどが含まれており、今後とも調査、研究を続けていく所存です。史料館ではとても良い研究環境に恵まれ、また、良きスタッフの皆さんのおかげで快適な研究生活を送ることができていることを大変ありがたく思っております。

今年、平成二〇年（二〇〇八）、目白キャンパスを象徴する一つの建物がなくなりました（写真27）。昭和四三年（一九六八）に放映されたウルトラセブンの番組でプロテ星人とウルトラセブンが戦い、京南大学という架空の大学の建物として登場するピラミッド校舎を、ウルトラセブンが誤って破壊してから四〇年目にして、本当にピラミッド校舎は取り壊されて、新しい建物が建つことになりました。昨年の秋以来、私は何度かピラミッド校舎を写真に撮ってきました。一度は内部も見学することができました。私にとってピラミッド校舎を利用したのは、すでにお話したように、中等科・高等科の入学式、そして大学進学や大学入学にあたっての説明会など、回数は限られますが、ピラミッド校舎という特異な建物を眺めた回数は数え切れません。また学習院の大学祭の後に、ピラミッド校舎の上までよじ登ったと誇らしげに話してくれた史学科の友人の話も思い出します。取り壊されるにあたって、改めて下から先端部分を眺めてみると青い空の広がりを感じました。ピラミッドという形は空間を実に上手に使ったものだと改めて感じ入りました。また、説明を受けながら、実際に内部を観察すると入口や天井の照明にしても、床や机、背もたれの部分にしても、いろいろなことを考え、細かい工夫が施されていることに改めて驚かされました。このピラミッド校舎が今後どのような形で生まれ変わっていくのか、それを楽しみにしながら、私の目白キャンパスの思い出の話を終わらせていただこうと思います。ご清聴ありがとうございました。

（平成二〇年九月一三日開催　第57回史料館講座）



27. 解体前の中央教室　（講演者撮影）